

また、関連質問につきましては、通告者と同会派の議員とし、本質問の内容と関係あるもので、本質問者の持ち時間内としておりますので、そのように御了承願います。

それでは、通告により順次発言を許します。清風会、5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） おはようございます。清風会の淵上清であります。質問に入ります前に、去る4月に発生しました熊本大地震は、想像を絶する未曾有の自然災害でありました。被災された皆様にお見舞いを申し上げ、とうとい命をなくされた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

さて、今議会は比田勝市長誕生後、初めての定例議会であります。しかも、今定例会から会派代表質問の制度が採用されました。議会活性化の意味においても、まことに当を得た制度であると思います。この制度が生かされるか否かは、市政執行者たる市長の姿勢にあると考えます。どうぞ、市民が納得できる姿勢で市政運営に当たられることを期待いたします。

清風会の質問時間は55分であります。私の持ち時間は30分しかありません。答弁は簡潔明快に願いますのであります。

さて、かねて通告いたしておりました、市長の政治姿勢についてお尋ねいたします。市長は選挙期間中に、市民と議会とスクラムを組んで対馬市の行政運営に邁進したいと、声を大にして訴えておられました。結果は、あの大差での当選を勝ち得られました。

そこで、お尋ねしたいのは、市長はどのような方法で、市民と議会とスクラムを組んで市政運営を行われるのかをお聞かせください。特に、議会对応についてもお聞かせください。

市長のその答弁をお聞きし、姿勢を確認した後、納得して2点目以降の質問について、質問席から行いたいと思います。よろしく御回答ください。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。清風会、淵上議員の質問にお答えいたします。

まず初めに、私の政治姿勢でございますが、スクラムといえばラグビーが頭に浮かびます。昨年のワールドカップラグビーにおける南アフリカ戦の逆転勝利は、ワールドカップ史上最大の番狂わせとも言われましたが、その一方、歴史的勝利を上げた桜の勇者たちとたたえられました。ラグビー二流国と言われる日本のチームが勝利を手繰り寄せることができたのは、目標を共有し、血のにじむような練習を重ね、最後まで全員が呼吸を合わせて、諦めずに前進した結果であると考えます。

同様に市民と議会と行政が地域課題を共有し、スクラムを組み、力を一つに合わせることで、前に進むことができると考えております。いずれかが先走ってもうまくいきません。3者で問題を把握した上で、全体をさまざまな視点からどのような解決方法があるのかを考え、ともに汗を流して取り組みたいという決意を示したものでございます。

この市政のスクラムをイメージ的に考えますと、一致団結して議論を交わし、切磋琢磨しながら対馬の活性化を目指すというイメージを描いております。どうかよろしく願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） まずは、市長の姿勢が公約どおりでしっかりとやっけていこうと、さま変わりしてないことが確認をできました。ひとまず安心でございます。

市長になった途端に、主権が我が手にありとばかりに舞い上がって、主権者は市民であるという民主主義の大原則を無視した為政者の後継ではないということが確認できました。私ども清風会も心して、議会会派としてのありようについてしっかり研さんを重ねてまいります。一緒に頑張りましょう。

さて、2点目の国際交流による島おこしについてお尋ねいたします。

まずは、対馬市の韓国との交流の現状について考えてみましょう。現在、年間20万人を超える観光客が来島しています。国内の同規模の離島の市町村からは、大変うらやましがられるような現象であります。果たして対馬の経済に、その数値に比例した好影響があるのでしょうか。市民の皆様が納得できる交流の現状であるのでしょうか。韓国観光客の皆さんが満足して、対馬にまた訪問したいと思って帰路についておられるのでしょうか。私は、全てについて疑問符を打ちたいと思うのであります。

次に、対馬市の観光客受け入れ体制をハード、ソフト面から検証してみます。まずは、ハード面です。観光客が入国しますと、まず入国審査を受けられます。その対馬に足を踏み込んだ途端に、厳原港、比田勝港、両港とも定期航路開設後、既に15年も経過しているにもかかわらず、この入国審査をする建物は、いまだプレハブ的なものであります。しかも、待合室と入国審査の建物は別棟でありまして、四、五十メートル離れております。その通路は、雨をしのぐとこのためには簡易テント的な屋根で雨をしのぐという現状であります。待合室は100人も入れればいっぱいになるほどの狭い部屋であります。しかも、免税店どころか売店もない国際ターミナルで、市内のホテル等の宿泊施設も飽和状態で、予約をとるのが大変な状況です。

対馬と韓国は、古来から交流の歴史がたくさんありますが、その資料や遺跡をしっかりと見せる施設も、観光客に満足してもらえるものではありません。史跡、景観等の観光地の整備もまだまだです。島内観光地をめぐる道路は、せめて幹線だけでも2車線の道路に改良したいものです。公衆トイレも適所に、団体客に対応できる近代的な物が待たれています。ゴルフ場や温泉の施設があればという声も聞こえてきます。

一方、ソフト面はどうでしょうか。観光客受け入れに一番大切な、おもてなしの心が島民に根づいているのでしょうか。ハングルの案内板等は不足はないのですか。ハングルで対応できる人は十分いるのでしょうか。ふれあい処つしまの交流の現状は機能しているのでしょうか。私は、

このような観光客受け入れ体制では、観光客の来島が尻細りになりはしないかと危惧するものがあります。

しかし、現状は新たなホテルの建設が始まりました。航路も1そうの増船が検討されたやに聞きます。博物館の建設も決定しているなど、やがて観光客30万の時代はすぐそこにあるのではないとも言えます。

いわゆる民間の活力は力強く躍動しておりますが、国際ターミナルの現状やC I Qの体制に代表されるように、行政サイドの現在までの後手後手の対応が大変危惧されております。

そこで、市長に基本的なことについて2点ほどお尋ねします。

具体的なことにつきましては、後ほど、同僚の船越議員が関連質問でいたしますので、具体的なことについては触れません。

1点目です。民間活力に先駆けて、将来の観光客目標数を50万人とか100万人とか定めまして、それに対応できる観光の島、対馬にふさわしい国際ターミナル等の施設整備計画とソフト面の対応策を含めた計画策定を早急に策定して、対馬市の国際交流にかける強い思いを広くアピールすべきと思いますが、いかがでしょうか。市長の国際交流にかける意欲のほどをお示ください。

2点目です。せっかく対馬高校から韓国釜慶大学への道が開かれておりますが、その卒業生の活用は行政として何の取り組みも見えません。せめて年間一、二名の市役所職員に採用すべきではないでしょうか。加えて、対馬の先人たちは古来から朝鮮国との深いかわりを持ちながら島の経済を支えてきました。その歴史と国際交流の手引書ともいうべき雨森芳洲先生の「交隣提醒」に言う精神の交流をわかりやすく説明した、おもてなしの手引き的なものを作成して、島民こぞっておもてなしの心の醸成を図るべきだというふうに考えますが、いかがでしょうか。

そのような一例ですけれども、ソフト面の対応策についても、どのようなお考えをお持ちかお聞かせください。よろしく申し上げます。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 1点目の対馬市の観光振興についてということで、お答えをしたいと思います。

平成27年度に観光関係事業者等との協議を行いまして、観光振興推進計画の素案を作成しているところでございますが、今後、その内容を市民の方々に意見を求め、計画をつくり上げる予定としているところでございます。この計画では、観光客数の増加はもちろんですが、観光消費額単価を10%アップすることにより、力強い観光産業を育む方向性で考えております。

外国人観光客の来訪者数につきましては、平成27年度は21万5,600人で、これを5年後の平成32年度には30万人とし、長期的には約2倍の40万人にすることを目標に考えてお

ります。これは、第2次対馬市総合計画にも目標値として掲げているところでございます。しかしながら、御質問にありましたように、ターミナル施設の整備やC I Q体制の充実、宿泊施設や飲食店等の観光関連施設の充実、交通体系の整備など受け入れ体制の環境整備は十分とは考えてはおりません。

観光客誘致による交流人口の拡大は対馬の浮揚に欠かせない施策でありますので、今後も誘客活動を行いながら、受け入れ環境の整備、体制づくりに一層力を注いでまいりたいと考えております。

次に、2点目の対馬高校の国際交流コースの卒業生の活用についてでございますけれども、対馬高校の国際文化交流コースが創設されて14年目を迎え、卒業後、釜慶大学校を含め韓国の大学に進学された生徒は36名になります。市といたしましても多様化する韓国との交流に対し、観光交流分野を初め、通訳なしで即戦力として市政に貢献できる優秀で意欲のある人材を求め、平成26年度、平成27年度と新規採用職員を募集しましたが、応募者がいなかったため、平成28年度は、特に在学中の大学生も受験できるよう、第1次試験の開催日を8月21日にかえて、6月16日から募集をしております。また、周知方法につきましては、対馬高校を初め、対馬市、釜山事務所を通じて釜慶大学校等にも募集案内をお届けしているところでございます。

次に、3点目の精神交流関係について、手引書を作成してはどうかということでございますけれども、私自身も雨森芳洲先生の本を読ませていただいたり、いろいろな功績を勉強させてもらったときに、大変、対馬の人間としても誇れる先輩を、偉大な先輩を持って自慢ができるところでございますけれども、ぜひこれらの先生たちの功績を後世の方たちに残すためにも、先ほど淵上議員さんがおっしゃられたような手引書等をもって、これらを市民の方たちにも周知していきたいと、そういうことで今後も検討していきたいというふうに考えております。どうかよろしく願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 5番、淵上清君。

○議員（5番 淵上 清君） 力強い御答弁を頂戴しました。答弁の中で、目標40万人とおっしゃられましたが、力強いお言葉の割には目標数値がちょっとどうかなと。せめて50万、50万の8割は40万ですよ。目標は50万、8割達成を目指して頑張るというぐらいのことをせんと、施設がなかなかしっかりしたものは整備できませんよ。その辺、後々のことですが、検討をお願いします。

もう、残りが少なくなりました。市長、あなたの市長就任に合わせたように国境離島新法が制定されました。ここに至るまでの谷川先生の御苦勞に感謝をいたしたいと思います。今、全国の各離島ではこの制定後、各離島の抱える共通の課題であります、航空運賃あるいは航路の運賃の低廉化、燃料の低廉化等に向けて、いろいろな諸課題についても陳情といたしますか、いろいろ政

策提案をしておられると思います。

私は、80億とか100億とか言われるこの予算では、その運賃等の低廉化にその予算の大半を食われてしまうと思います。あとの残りは、やはりこの制度がしっかり国民に理解をされるような目玉の政策に振り当てられると思います。いわゆる各離島の、国境の離島の何と申しますか、雇用対策等がしっかりできる政策に割り振られると思うんです。だから、ある意味、およそ80億の、長崎県に半分の離島がありますから、おおよそ単純計算して、半分が長崎県に割り振られる、そのうちの半分は燃油等の低廉化に配分されるでしょう。そうしますと、20億から25億ぐらいのものが、この長崎県内の離島の目玉政策に対する配分がなされるんじゃないかと想定してるんです。

そうしますと、ほかの離島ではその雇用対策として、刑務所の誘致とか不登校者の学校創設して、全国から不登校の学生たちを呼び込んでの雇用対策等が提案される模様です。私は、対馬市はまさにこの国際交流を目玉とした国際交流で島おこし、そういう国際交流の特区的なものの指定を受けた中で、道路等の整備あるいはトイレ、いろいろな課題の整備をやっていくべきだと思うんです。

特に、市長は選挙中に、対馬の北から南までの海沿いにトレッキングコースをつくって、日本一の景観のすばらしいコースをつくりたいんだと訴えておられました。そういうものを、この特区の中で組み込んでいけばやっていけるんじゃないかと。

いろいろな方策が加えられますので、特に、この国境離島新法の予算配分には神経を使ってください。で、それに向けてのプロジェクトチーム的なものもできるようですから、議会も一緒に巻き込んでやっていきたいものだと思います。

加えて、国際交流と申しますと、皆さん、人的な交流20万、30万来ているかなと、そちらのほうに視点が行くようですが、本当の国際交流は経済交流なんです。いわゆる貿易が必要だと思うんです。

対馬と韓国との国際交流、いわゆる貿易を考えますと、対馬サイドでは対馬にあるのは水産資源、そして島の80%を超える山林に、いまだ活用されずに眠っております杉・ヒノキ成木、この辺をしっかりと貿易で、造林した方々が納得できる制度をつくっていかないと、個人ではやれませんよ。だから、そのためには、制度の中に国際交流の中の貿易に特化した伐採をするなら、それに向けた作業道の整備とか出しの経費の負担とかそういうものを制度化して、山主が納得して伐採に踏ん切りがつけられるような制度を構築すべきだと思うんです。行政がやらなければ個人ではできません。いい機会ですから、その辺も含めて、この制度の中に組み込んでいけるような努力をしなければいけないと私は考えます。御意見をお聞かせください。私の持ち時間使い切りましたので、簡略に。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず初めに、国境離島新法関係でございますけども、洲上議員さんおっしゃられるように、関連予算が80億円とも100億円とも言われております。この中の主なところが、言われるように、航空運賃や航路運賃の低廉化、そして燃油価格の低廉化対策に大方が回るんじゃないかなというふうに、私自身もいろいろと聞いております。そういった中で、特に議員御提案のこの国際交流特区の提案の一つの手法だというふうに、私自身も位置づけておりますので、検討してまいりたいというふうに考えております。

それとまた、私自身もこの選挙期間中に声を大きく申しておりました、トレッキングコースにつきましても、これは実現に向けて調査検討を早期にしていまいりたいと、その上で、この雇用対策等の喫緊の課題もありますけども、早期に提案ができるようにしていきたいというふうに考えております。

それと、最後の経済関係の件でございますけども、対馬産ヒノキ、杉の韓国輸出における仕組みづくりについてでございますけども、このことにつきましては、私もこの選挙の公約の中に挙げておりました、豊かな島づくりの5つの拡大戦略の一政策の一つでもありまして、対馬での供給体制や韓国でのPR、そして、木材製品としての輸出などを検討しながら、積極的に取り組んでまいりたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 5番、洲上清君。

○議員（5番 洲上 清君） 意欲、わかりました。ぜひ国境離島新法を大いに活用して、議会と、市長がおっしゃるように、スクラム組んでいろいろの持ち分、持ち分を生かしながら、市民が納得できる行政運営を一緒にやっていきましょう。

時間、少し食い込みました。終わります。

○議長（堀江 政武君） 関連質問で、清風会、4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。会派代表の洲上議員の関連で、文化財等の整備について、釜山事務所の拡充について、以上2点について市長並びに教育長にお伺いをいたします。

私の持ち時間は22分残っておりますので、答弁は簡潔をお願いいたします。

まず、1点目は、文化財の整備についてであります。今回は前教育長にも質問した経緯がございますが、清水山城跡の整備について伺います。清水山城跡は御承知のように、有明山から東に延びた支脈の先端に、府中城下を見おろすようにそびえているのが清水山城で、標高206メートルの頂上から地形に応じて3段に山城が構築され、頂上の一の丸、中腹の段を二の丸、東に突き出した段丘が三の丸で、各段には石垣をめぐらした城郭があり、戦国風の山城の形